

平成30年度 二松学舎大学 日本漢学研究センター主催公開講座

平成30年度日本漢学研究センターが主催する公開講座は、日本漢学研究又は漢文文献の調査・整理に関心を持つ若手研究者を育成する講座です。受講対象者は、学内外の大学院生及び院生レベルの若者を主とし、他に一般社会人等にも、演習・講義等を通じて必要な基礎知識と技能を身につけていただくことを目的としています。

◆受講料： **無料** ◆対象者： 学生、研究者、教員、図書館員及び一般の方 ◆会場： 本学九段校舎

◆応募締切等： **4月27日**〔演習講座(1~4)は、受講許可の選考を行います。〕

◆申込・問い合わせ先： 二松学舎大学 東アジア学術総合研究所 日本漢学研究センター 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-4-14
Tel: 03-3261-3535 Fax: 03-3261-3536 e-mail: eastasia@nishogakusha-u.ac.jp URL: http://www.nishogakusha-u.ac.jp/eastasia/

講座名	内 容	講 師	所 属	期間・時限等	募集人員	
演習講座 * (本学授業科目)	1 古文書解読講座	江戸～明治期の儒者・医者など、漢字漢文に素養のある人々の、書簡・日記・書幅などの肉筆資料を中心に読解していく。一般に漢籍と違って、国書では書写資料の占める割合が非常に高く、ことに江戸～明治期の漢詩漢文は、同好者間に小部数流通した場合が多く、この分野を扱う以上、書写資料の読解は避けて通れない。多くの資料に触れて、当時の書体・用字・用語に習熟して欲しい。	町 泉寿郎	本学文学部 教授	火曜日 5時限	募集を締め 切りました
	2 『古事談』の研究	13世紀初頭に源頭兼が編纂した『古事談』を取り上げる。6巻からなるこの説話集は、王道后宮・臣節・僧行・勇士・神社仏寺・亭宅諸道の6部に分かれ、ほぼ時系列に各説話が配列されている。そしてその文体は引用文献の文体がほぼそのままに写されているために、貴族日記・記録をもとにしたものは漢文体、巷間の説話を収録したものは漢字片仮名交じりの和漢混淆文体という具合に多岐にわたる。中世の男性が日常に使用していた文体に、本書を通じて触れ、当時の文体の理解に繋げてほしい。	磯 水絵	本学文学部 教授	火曜日 3時限	募集を締め 切りました
	3 『国語』の研究	春秋時代の歴史書『国語』を、清朝の学者の残した校勘記、注釈、読書メモ及び近年の研究成果を参照しながら精読する。またそれと並行して、林羅山の道春点本『国語』、関脩齡『国語略説』、秦鼎『国語定本』等も読んでいく。中国古典を現代の訳注や書き下し文だけに頼らず、先人の残した資料や近年の研究成果などを参照しながら読み解く力を身につけることを目的とする。	小方 伴子	本学文学部 教授	月曜日 5時限	募集を締め 切りました
	4 漢文資料解読講座	王治本は、30年ほど日本に滞在し、激動の明治期を目の当たりにした中国浙江省出身の文化人で、日本各地に詩文を残している。『食研齋文稿』は、彼が地方の人々と交流する際に書いた稿本である。この稿本の解読を通して、文献整理の能力を高め、明治時代における日中漢文学交流について考える	王 宝平	本学文学部 教授	金曜日 2時限	募集を締め 切りました

注) 1. 開講時間 = 2時限：10:50～12:20 3時限：13:00～14:30 5時限：16:40～18:10

2. 前期・後期 = 前期：4/9～7/28の15回 後期：9/13～12/19・1/7～1/21の15回

3. 開講日等 = 開講予定日・教室は、講師及び学内行事等の都合で変更する場合があります。

また、夏期休業は 8/5～9/12、冬期休業は 12/26～1/6 です。